協　会　報

日本林業

● 2018年 5月号 ●

発行　平成30 年６月１日

発行：一般社団法人　日本林業協会

東京都港区赤坂１－９－１３三会堂ビル
TEL. 03-3586-8430　FAX. 03-3586-8434
編集・発行人　前田直登

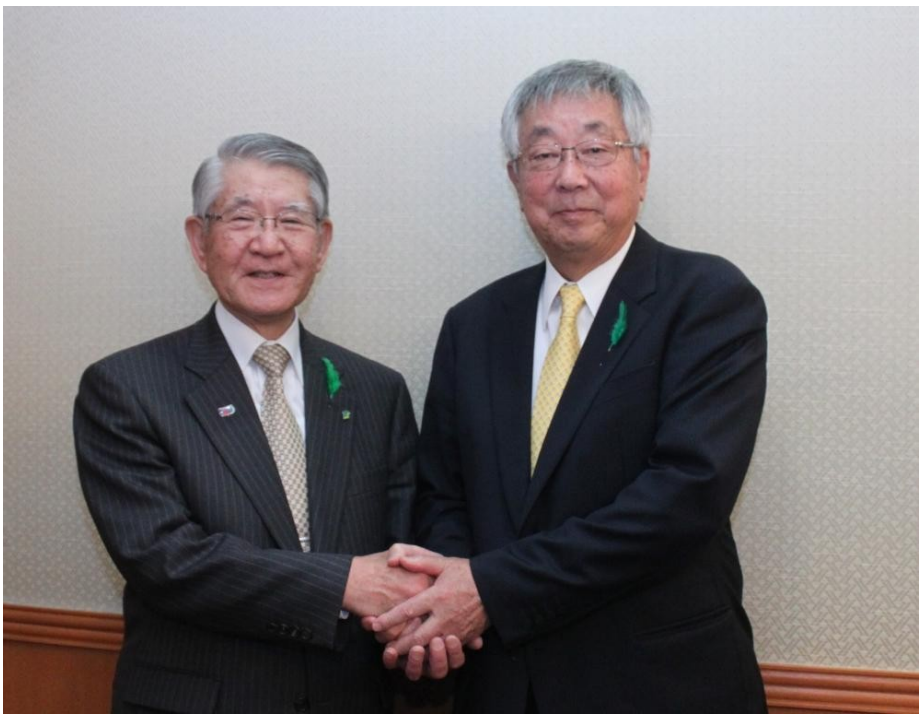
鈴木和雄全木連会長 松原正和全木協連会長 の新体制が発足

―協会からの情報提供を一段と充実―

- 一般向け情報誌として『森林と林業』
- 会員向け情報誌として『協会報　日本林業』を発行

目次:

全木連 全木協連 首脳人事	1 - 2
林活地方議連 第１回役員会 和歌山で開催	3
国会および 行事日程	3



右が鈴木全木連新会長、左が松原全木協連新会長

一般社団法人全国木材組合連合会（略称・全木連）と全国木材協同組合連合会（略称・全木協連）はそれぞれ５月15日に開催された定時総会で役員改選をおこない、全木連会長には前副会長で愛知・東海支部長の鈴木和雄氏を、全木協連会長には前副会長で北海道木材産業協同組合連合会会長の松原正和氏を会長に選任した。双方の総会で会長に就任した鈴木和雄全木連会長と松原正和全木協連会長は総会翌日の16日にそろって記者会見を行い、それぞれ、就任に際しての抱負を語った。

記者会見の席上、鈴木会長が自身の経歴を「日大理工学部機械科の卒業（昭和41年）で全く木材と関連がないところの出身です」と説明したところ、このあとに続いた松原会長が「いま初めて知りましたが、私も昭和46年、日大理工学部の卒業です」と自身の経歴を表明し、図らずも全木連、全木協連の両新会長が日大理工学部の同窓生であることが発覚した。今後、両団体の政策展開でも息の合った連携が強まる気配をうかがわせる会見風景となった。

鈴木和雄全国木材組合連合会新会長　新任の抱負

鈴木和雄全木連会長は、「国産材の自給率を50%にすると言われてから世の中の流れは大きく変わってきているように感じています。このような機運、取組の中で、18%くらいだった国産材が35%にまで伸びたということは大変喜ばしいことであるが、その結果山はよくなったかというとかえってかえって悪くなった。林業家の収入は減ったということが起こっている。利益分を山に返していくようにしないと、長期的には木材産業は成り立たなくると考えています。いろいろな面で改革を進めてをしていかなくてはならないと考えている。また木が育つには100年かかるが、人間も一生100年で、同じスパンを有した地上資源だ。どうしたら山を後世に伝えていけるか―これからも全国森林組合連合会とも協力しながら真剣に検討していきたい。」と就任にあたっての抱負を語った。

なお鈴木会長は、「現状の製品流通をみるとき、あまりにも強度ということのみが優先されているように感じる。集成材のラミナ部分に平気で白太（辺材部）が使われていたり、耐久性の弱い欧州トウヒなどが使われている。腐ったら強度もへったくれもない。そういうような間違った見方も修正していきたい」との考えも表明した。

松原正和全国木材協同組合連合会新会長　新任の抱負

松原正和全木協連会長は「木材産業は個々は中小零細という立ち位置にあると考える。個々の努力ではどうにもならなかったようなものを協同組合という形をとることによって成し遂げ、大きな成果を上げてきたわけであるが、苦しい場面ではどうしても中小零細にそのしわ寄せがくる。いま協同組合の減少という難しい局面に直面しているわけであるが、これをこれまでのような、業界の先頭に立って働けるような協同組合にしていきたい、それが当面の目標です。今政府は働き方改革を大きな方向として検討しているが、３Ｋ直結するような植林から育林に係る山の仕事については非常に心配をしています。伐る機械から植える機械への技術開発の転換を関係方面には強く要請していますが、急斜面の中で木をきちんと植えていくのは現実問題として大変難しいことだ。何とか関係方面の方には方向性を見出してほしいと考えています。なお北海道でも林業大学校を作ろうという機運が高まってきていますが、人材育成、働き方改革についても全木協連として積極的に取り組んでいきたい」と新しい施策展開の方向性を表明した。

森林・林業・林産業活性化促進地方議員連盟全国連絡会議
平成３０年度第１回役員会を和歌山で開催

役員会で挨拶する谷会長（中央）

森林・林業・林産業活性化促進地方議員連盟全国連絡会議（略称：林活地方議連、会長：谷洋一和歌山県林活議連会長）の平成３０年度第１回役員会を5月14日に和歌山市で開催した。

役員会には近畿中国森林管理局の平野均一郎次長、林野庁計画課施工企画調整室の木暮甲吉室長などの林野庁関係者や和歌山県の下宏副知事、農林水産部西山久雄森林・林業局長などが来賓として出席した。

役員会冒頭、谷洋一林活地方議連会長は「長年の悲願であった森林環境税が実現することとなった、また、新しい森林経営管理のあり方が、今国会で審議されている。森林・林業・木材産業の新しい流れがはじまる中で、林活地方議連の果たしてきた役割は大きい」と挨拶し、審議に入った。役員会では、次年度事業計画案検討のほか、林活地方議連の平成30年度提言内容の検討が行われ、大会テーマ等についての検討も行われた。

平成３０年４月　国会の動き

◇第196回通常国会　主要日程
10日（火）参国交委・建築基準法案質疑
11日（水）衆農水委・森林経営管理法案他質疑
19日（木）衆本会議・森林経営管理法案議了
◇各政党主要日程
3日（火）自民・経済構造改革に関する特命委員会（林業のＩＴ化について）
3日（火）自民・所有者不明土地に関する特命委員会（関係団体ヒアリング）
10日（火）自民・農林合同（林業白書、11日も）
10日（火）自民・経済構造改革に関する特命委員会（林業のＩＴ化についてヒアリング・遠藤日雄、藤村要氏-伊万里木材、タマホーム）
17日（火）自民・林政対策委（森林・林業改革の推進について）
18日（水）自民・所有者不明土地等に関する特命委員会（関係団体ヒアリング - 不動産協会、全国住宅産業協会等）
19日（木）自民・雇用問題調査会（人手不足に対する中長期的な政策の方向性について）
24日（火）自民・森林林業林産業活性化推進議員連盟総会（森林環境税、提出法案、予算等）

平成３０年５月　業界の動き

7日（月）「明治150年・食文化の歩み」（農林水産省消費者の部屋、18日まで）
11日（金）春の叙勲伝達式（農林水産省講堂）
12日（土）第28回森と花の祭典 - 「みどりの感謝祭」（イイノホール）
12日（土）みどりの感謝祭併催「みどりとふれあうフェスティバル」（日比谷公園、13日も）
12日（土）日本木材青壮年団体連合会第63回全国会員東京大会（よみうりホール）
14日（月）林活地方議連第一回役員会（和歌山県庁予算委員会室）
15日（火）春の褒章伝達式（農林水産省講堂）
15日（火）全国木材組合連合会、全国木材協同組合連合会定時総会（メルパルク東京）
17日（木）森林と林業編集会議
18日（金）日本集成材工業協同組合総会（KKR）
20日（日）山地災害防止キャンペーン（6月30日まで）
23日（水）日本合板工業組合連合会総会（ホテルグランドパレス）
31日（木）全国森林レク協会フォーラム「新たな山村と都市との交流」（文京区民センター）